

京都市立稻荷小学校 第1回「特別の教科道徳」授業研究会

令和3年7月8日

授業者：3年1組担任 児島 健教諭

主題名：親切・思いやり

B「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」

教材名：「ほんとうのことをいってもいいの？」

パトリシア・C/マキサック 作



まず、めあての確認をしました。「ほんとうのことをいう」ってどういうことなのか考えよう。子どもたちの意識には、それは当たり前だ。と、いう意識でした。ところが、次にあらすじを説明しました。リビーは、うそについて、お母さんにしかかれてしまいます。リビーは

それからは、本当のことを言うことにしました。「友だちの靴下に穴があいてるよ。」とか「宿題を忘れてるよ。」とか。でも、そのことによって回りの友だちから嫌われてしまします。子どもたちからは、「うっ！？なんで。本当のことを言っているのに。」と、いう声がもれました。

＜資料の朗読＞

＜展開前段＞

T:本当のことを言っているのに、どうしてリビーはみんなから嫌われたのだろう。

C:だめなことを言ったから。

C:友だちがいやになることを言ったから。

＜展開後段＞



リビーは自分が大切にしている馬をよぼよぼだと言われた時にハッとなります。何にハッとしたのでしょうか。これが、中心発問になります。



子どもたちは、ワークシートに自分の考えを書き始めました。



T:リビーは、何にハッとしたのでしょうか。

C:いくら本当のことでも相手のいやがることを言ってはだめだということに気付きました。

C:本当のことを言われたら、相手も自分もいやになった。本当のことは言った方がいいけれど、相手が本当のことを言われてどう思うか考えてから言った方がいい。

C:本当のことを友だちに言ったから、みんないやだったんだ。だから、何でもかんでも本当のことを言わなくていい時もあるんだ。



リビーがハッとしたことから、本当のことを言う場合でも、相手のことを考えて言うことが大切だと気付いていきます。本時の価値「思いやり」に近付いた時間でした。そこで、さらに深めるため「いう」「いわない」という立場にネームプレートを貼りました。



ネームプレートを貼る場面



結果

この板書をもとに、さらに深めました。

T: 真ん中の人には、どんな考えですか。

C: 本当のことを言う時と言わない時があってよい。

C: 相手が喜ばない時は、言わない方がよい。

T: 言わないという人は？

C: 言ったら相手が傷つくので、言わない方がよい。

T: 言うという人は？

C: 後から気付くよりは、言ってあげたほうがよい。

C: 相手が一人になった時に言ってあげたらよい。

* このように本当のことを言う、言わないでなく、相手の気持ちを考えて言うことの大切さにいきつきました。

T: 実は、このお話に続きがあります。

と、言って指導者が続きを読み始めました。リビーが本当のことを言っていたやな思いをさせた人たちに順番に謝っていきます。でも最後に「おばさんの庭、ジャングルみたい。」と言ったおばさんだけは、「リビーに正直に言ってもらってよかったです。」と庭掃除をしていました。そして、ふりかえりを書きました。



児童のふりかえりから

本当のことを言うのは相手にとって良いことと悪いこととかを考えて行動しないといけないんだと思いました。友だちの悪口とか言うと後で自分の気持ちも相手の気持ちもいやだし、言ってもいいことと悪いことがあるんだなと思いました。

本当のことだけ言って、良いこととだめなことがあるんだなーと思いました。最後のリビーみたいにいい本当のことを言えたらしいなと思いました。。

リビーは、悪いことをしてしまって、気付いて終わりじゃなくて、最後あやまっていたのがいいなと思いました。正しい本当のことに気付いたら相手のことを考えて言うのは大事だなと思いました。